

### Ⅲ 連 携 協 力 事 業

## 宮崎市教育委員会との連携協力

宮崎市教育委員会との平成28年度連携協力事業については、以下のとおりである。

### 1 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総数 6名（4年生 5名、科目等履修生 1名）
- (2) 活動期間 半年間

### 2 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総数 9名（3年生 9名）
- (2) 活動日数 1年間

### 3 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総数 3名（4年生 2名、科目等履修生 1名）
- (2) 活動期間 半年間

#### 4 大宮中学校別室登校生徒への支援活動（ 長期：1年間 ）

学校から別室登校生への支援依頼があり、教職課程を履修している3年生を中心に、別室登校生の学習指導や悩み相談等の支援を行った。

- (1) 総 数 5名（ 3年生 5名 ）
- (2) 活動期間 1年間

#### 5 第10回ひむかかると競技大会

平成29年2月18日(土) 宮崎公立大学体育館において開催した。

- (1) 目 的 宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
- (2) 主 催 ひむかかると協会
- (3) 共 催 宮崎公立大学、宮崎市教育委員会
- (4) 後 援 宮崎県教育委員会
- (5) 協 賛 宮崎中央ロータリークラブ
- (6) 競技種目 団体戦・個人戦
- (7) 参加資格 小学生の部 県内小学校に在籍する小学生  
幼児の部 宮崎市内保育園児・幼稚園児

詳細は 91ページに掲載

## 6 その他の活動

### 宮崎西中学校における学校支援ボランティア

① サマースクール支援（夏季休暇中）： 23名参加

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行った。

② 英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行った。

(1) 11月： 28名参加

(2) 2月： 15名参加

### <宮崎県教育委員会主催事業>

#### スクールトライアル事業への参加（ 短期：3日間 ）

昨年度に引き続き、教員を目指す2年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供した。

(1) 総 数 20名（ 2年生 20名 ）

(2) 受入学校 県内の中学校、高等学校

(3) 活動日数 3日間

行事名	第 10 回 ひむかかると競技大会
目的	宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
実施日時	平成 29 年 2 月 18 日（土） 午前 9 時～午後 4 時
会場	宮崎公立大学 体育館（宮崎市船塚 2 丁目 184 番地）
主催	ひむかかると協会
共催	宮崎公立大学、宮崎市教育委員会
後援	宮崎県教育委員会
協賛	宮崎中央ロータリークラブ
競技種目	個人戦、団体戦
参加資格	小学生の部 県内在住の小学生 幼児の部 市内保育園児・幼稚園児
参加人数 (チーム)	13 小学校、2 園より、団体戦、個人戦合計約 110 名。
参加者数	選手約 110 名。 来賓、観客も含め約 300 名。
参加者負担	(参加料) 無料
資料等	団体戦各小学校・幼稚園・保育園 3 チーム、個人戦 3 名までとする。
競技方法	団体、個人それぞれ当日抽選を行い、予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦にて行う。
競技規則	別に定める「ひむかかると大会競技規則」による
審判	競技規則に基づき公認審判員が努める。
表彰	1～4 位を上位入賞者とし、表彰する。また参加選手全員に参加賞を授与する。

## 【競技のもよう】

- ・小学校の部には、市内 13 校、2 園から団体戦、個人戦合わせて 110 名の児童・園児が参加し、盛況のうちに無事大会を行うことができた。小学校の部については、当初 16 校の参加が見込まれていたが、インフルエンザ等の事情から 13 校となった。
- ・午前 9 時 30 分より開会式が行われた。来賓として本学より田原健二理事長、学外より二見俊一宮崎市教育長、宮崎中央ロータリークラブ・松山春喜 SAA（会長代理）が臨席した。
- ・10 時より試合開始。昼休憩(12 時～13 時)をはさみ、午前中は予選リーグ 3 試合、午後は決勝トーナメント 4 試合が、それぞれ団体戦、個人戦同時並行という形で行われた。
- ・第 10 回目を迎えた今年度であったが、実質参加校数は昨年度と比べ 6 校減の 13 校となり、選手数も 20 名程度減少した。当初参加を予定一方試合内容においては昨年を上回るハイレベルな技の攻防が相次ぎ、より一層の選手の技量アップが確認できた。特に午後の決勝トーナメントでは白熱した試合が展開された。各学校での日ごろの取り組みが反映されたものとする。
- ・また、昨年度行われなかった「幼児の部」が復活し、団体戦を 2 園、4 チームによるリーグ戦を行った。
- ・小学校の部では、団体戦は西池小学校 A チームが連覇を果たし、個人戦では松本彩香選手(穆佐小)が優勝した。園児の部では生目台幼稚園チームが優勝した。

## 【今大会の特徴】

### ① 運営・演出面

- ・昨年度好評だった BGM による演出や、「みやぎき犬」によるサプライズ演出については本年度も継続し、おおよその好評を得た。また、昨年シンガーソングライターの大野勇太氏に作詞・作曲を依頼した「ひむかかるとの歌」をイメージソングとして随所に流すことで、大会全体のまとまったイメージ作りをすることができた。
- ・また、大会運営に当たっては、本年度も宮崎中央ロータリークラブ傘下の青年組織である「宮崎中央ローターアクトクラブ」に大会の事前広報活動（宣伝パンフレット、新聞形式のかかるた通信(計 2 回)等の宣伝メディアの発行、配布）や当日の運営の主要業務を担当していただいた。特に本年度は大会の様子をまとめた「ひむかかるとの通信」第 8 号の発行と、市内各校をはじめとした関係各方面への配布を 3 月中旬に行うことができ、活動の宣伝に大いに貢献していただいたと感謝している。
- ・本年度実験的な試みとして、子供審判員制度を導入し、審判試験に合格した児童の中から 2 名、大会審判として参加した。勝負の判断力、試合の流れを作る能力とも、大学生審判員と比べても何ら遜色はなく、素晴らしい審判ぶりであった。ひむかかるとのルールは単純明快なため子供たちにも取り組みやすく、また審判として試合に参加することは、選手として勝負を争うこととはまた違った喜びを与えるようである。大会の充実とかるた普及への効果を期待して同制度を充実したものとしていきたい。

## ② 参加学校について

- ・小学生の部における参加校数については、残念ながら昨年度の 19 校から減少し、13 校となった（事前エントリーは 16 校だったが、インフルエンザ等の事情により、上記の参加校数となった）。今後何らかの強化策が必要であると考え。今大会の参加はかなわなかったものの、日ごろからかたるたに取り組んでいる学校は、現状では市内だけでも 20 を超えており、大会参加校数拡大の可能性は十分にあるものと考え。第 10 回大会をもって宮崎公立大学が直接管轄する地域貢献活動としては終了になるが、「ひむかたるた協会」を中心に第 11 回大会以降も継続して行っていくことが決定しており、平成 29 年度以降、新たな体制の中でより魅力的な大会づくりを進めていく所存である。

## ③ 教育研究を軸としたかたるたの普及活動（「ひむかたるた教育研究会」）について

- ・昨年度立ち上げた「ひむかたるた教育研究会」（会長・高山秀典）については、6 月、11 月に開催し、ひむかたるたを用いた教育プログラムの研究や、指導方法の研修などを行うことができた。
- ・とりわけ 11 月 8 日に行った研究会は、市の小社研研究会に組み込んでいただき、大塚小・佐多教諭による研究授業と事後研究会に 30 小学校・32 名の参加をいただくことができた。
- ・前述のようにひむかたるたを取り上げている小学校は、現状市内だけでも 20 を超えている。また平成 28 年度協力事業に何らかの形で協力いただいた小学校は 15 校にのぼる。常日頃の普及活動においては、同研究会を軸に各学校との関係強化を図ることでこれらの小学校を拠点により大きなかたるた普及の流れを作ることが重要であると考え。

## 【今後に向けて】

- ・前述のように、本年度をもって宮崎公立大学が直接管轄する地域貢献活動としては一応終了となるが、「ひむかたるた協会」を中心に、市教育委員会、宮崎公立大学の協力を仰ぎながら、今後も活動を続けていく所存である。
- ・最後に、今後のかたるた普及活動の方向性について示しておきたい。報告者が大会運営・普及活動に関わりはじめた当初は、群馬県の「上毛かたるた」をモデルに、子供たちが遊びとして「かたるた漬け」になる状況を、宮崎地域において創造することが一つの目標であった。しかしゲームとして単純明快なルールを持つかたるたは、子供たちにとって取り組みやすい反面、ゲーム機器が発達した現代においては、純粋な「遊び」としてはやや飽きられやすい傾向があり、昭和 22 年以来の伝統を持つ「上毛かたるた」と同等の状況を作り出すことは困難であった。
- ・半面、教育ツールとしての効果については、様々な可能性を見出すことができた。したがって今後は今まで以上に教育分野における普及活動が軸となる。その意味でも、これまでの活動において市教育委員会および各小学校との協力関係を作ってきたことは、大きな財産となるであろう。特にクラブ活動や校内大会における子供たちの「自主運営」、ひむかたるたを駆使した社会科教育のプログラム案づくりや、学校と地域社会の協力による学区内かたるたの作成といった試みは、教育委員会の後ろ盾のもと、現場の先生方の情熱に支えられ、多大なる御尽力をいただくことで可能であったと考える。関係各位には厚く御礼を述べるとともに、これからも変わらぬご尽力を賜るよう、切にお願い申し上げる次第である。

文責・梅津 顕一郎（本学人文学部准教授、ひむかたるた協会会長）

競技風景  
＜開会式＞



来賓祝辞（公立大・田原理事長）  
選手宣誓



ルール説明

<白熱した試合>

